

ご家族・二世帯住宅の方へもご覧下さい


防災だより

第 13 号

小田急金森泉自治会 自主防災隊

2021 年 1 月 10 日発行

小川高校避難施設 開設・運営マニュアル配付にあたり



コロナだけでない

大地震時は、マニュアルに基づいて行動します！

首都圏では、30 年以内に 70%以上の確率で、大地震が発生するとされています。

私たちも各種備えを進めていますが、主に最も重要となる災害発生直後の自宅と周辺での対応です。従って、発災時には 2017 年 3 月にお届けした「大地震発生時の行動マニュアル・震度 5 強以上」に基づく行動をお願いしています。

今回は、主にそれ以降の避難生活に至るときとその後を記した「小川高校避難施設 開設・運営マニュアル」をお届けし、目的や意味を正しく理解して、備えのひとつとして頂くものです。まず、仕組みを知ること、スムーズな行動につながると期待しています。

避難施設とは、自宅に住めなくなった人の仮の生活の場です！

地震などにより自宅倒壊や焼失で住めない、余震が心配で戻れないなど、住民の一時または中長期の「当面の居住場所」で、小・中・高校を主体に町田市全体で 72 箇所、私たちの南地区で 11 箇所が指定されています。従って、余震などが少し収まり、地域の安全が確認されれば、自宅や自宅敷地などで生活できる人は、自宅に戻り生活します。

私たちの避難施設は、小川高校です！

「小川高校」は、私たちの自治会の他に、周辺 4 自治会（成瀬が丘自治会、小川自治会、西小川親和会、京浜小川自治会、マニュアル 3・7・36 頁参照）も利用し、さらに、自治会未加入の市民や帰宅困難者も含め、多くの方々が利用します。

小川高校の施設とは、災害時こんなところです！（マニュアル 3・8・9 頁参照）

災害時、ここに様々な人たちが集まり、校庭への入り方は？ 避難生活はどこで？ どのように寝る？ トイレ？ 食事？ ゴミや掃除？ ペット？ ルール？ これらを誰がやる？ などなど・・・その場で決めていたら大混乱・大紛糾です。

そこで、市内の避難施設運営の標準化を目指して 2018 年 9 月発行した「町田市町内会・自治会連合会の避難施設運営モデルマニュアル」に基づき、周辺 5 自治会が中心となって、小川高校や周辺地域の特性を盛り込んだマニュアルを作成しました。（裏へ続く）

その内容を大線りにまとめると、災害時の小川高校の施設とは、

- 避難広場と避難施設の二つの機能 (校庭を避難広場に利用する自治会もありますが、
私たちの避難広場は、わさび田児童公園です)
- 発災時の開設は開設委員会が担当 (5自治会委員 + 市指定職員 + 学校職員)
- 開設後の運営は運営委員会が担当 (当初の開設委員会から、避難者主体に移行し、
校内の町田市防災倉庫保管の別の運営マニュアル使用)
- 地域の支援物資受取と情報受発信の拠点 (在宅者対応のため地域との連携委員置く)
- 感染防止対策は、別の町田市のマニュアル (一部の仕組みは、今回配付のマニュアル
に記載あり)

今回配付のマニュアルは、開設委員会用に作ったが・・・

発災 ⇒ まず自分や家族 ⇒ 火の始末 ⇒ 隣近所と班の安否や安全確認 ⇒ 消火や救出
⇒ 避難広場での一時様子見 ⇒ 住居を失った人のために避難施設開設と受入
と、ここまでは時間との勝負です。特に避難施設開設は、「住民が普段使っていない場
所で、重要な手順と多くの作業が必要なこと」から、平時の今、このマニュアルを作って
「開設委員会」を設け、今後、習熟訓練と改善を重ねて備えることにしました。
(マニュアル 19~23 頁の安全確認 5 項目 + 受入準備 5 項目 + 受入後の作業 8 項目を参照)
ただし、開設委員会の委員は固定した人でなく、入れ替えながらより多くの人に知って
もらい、いつ発災しても対応できるように裾野を広げようと考えています。また、災害後
の在宅者と避難施設 (情報や支援物資の拠点) を結ぶ体制も構築する予定です。

特に見て頂きたいところです！ ⇒ これらの頁を入口にして、全部読んで下さい。

- 6 頁 開設委員会から運営委員会への移行
- 7 頁 周辺の公的施設と関係自治会の位置図
- 8・9 頁 避難広場・避難施設としての利用図 (小川高校の校舎・校庭等)
- 11 頁 大地震発生からの地域住民行動
- 20 頁 体育館の準備 柔道場と剣道場の準備
- 36 頁 推定避難者数の算定表

命を守り生き抜く備え

本当は、これをお伝えしたい！

体育館などの 1 人当りスペースからも判るように、避難施設は決して居心地が良いとは言えません。自宅での生活が継続できるように、日頃の取組みや備えが大切です。

安全な家・寝室・居間・台所 耐震診断と補強 (寝室だけでも)、家具転倒方向を避けて寝る (家具向き変えも)、家具の転倒防止や買替え、重い物を下へ、ガラス飛散防止、照明、水食料 (使って補充のローリングストック)、料理熱源、簡易トイレ、寒さ対策など